

PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

河合塾・リアセック PROGセミナー2013

動き始めたジェネリックスキルの 育成と評価

—教育改革の現場から見える成果と課題—

**主催 学校法人河合塾 株式会社リアセック
共催 株式会社KEIアドバス**

「啓蒙期」から「実践期」へ

- ジェネリックスキル(GS)育成の必要性は認知されてきた
=啓蒙期の終焉



- 大学間の温度差はありつつも、GSの育成の取り組みが始まっている=実践期の始まり



- 本セミナー:「実践期」のいまを把握し、これからを展望する
- 具体的にはGSの「評価」と「育成」の成果と課題を確認する

CONTENTS

1 ジェネリックスキルの評価における成果と課題

1-1 評価の現状と成果

1-2 評価の課題

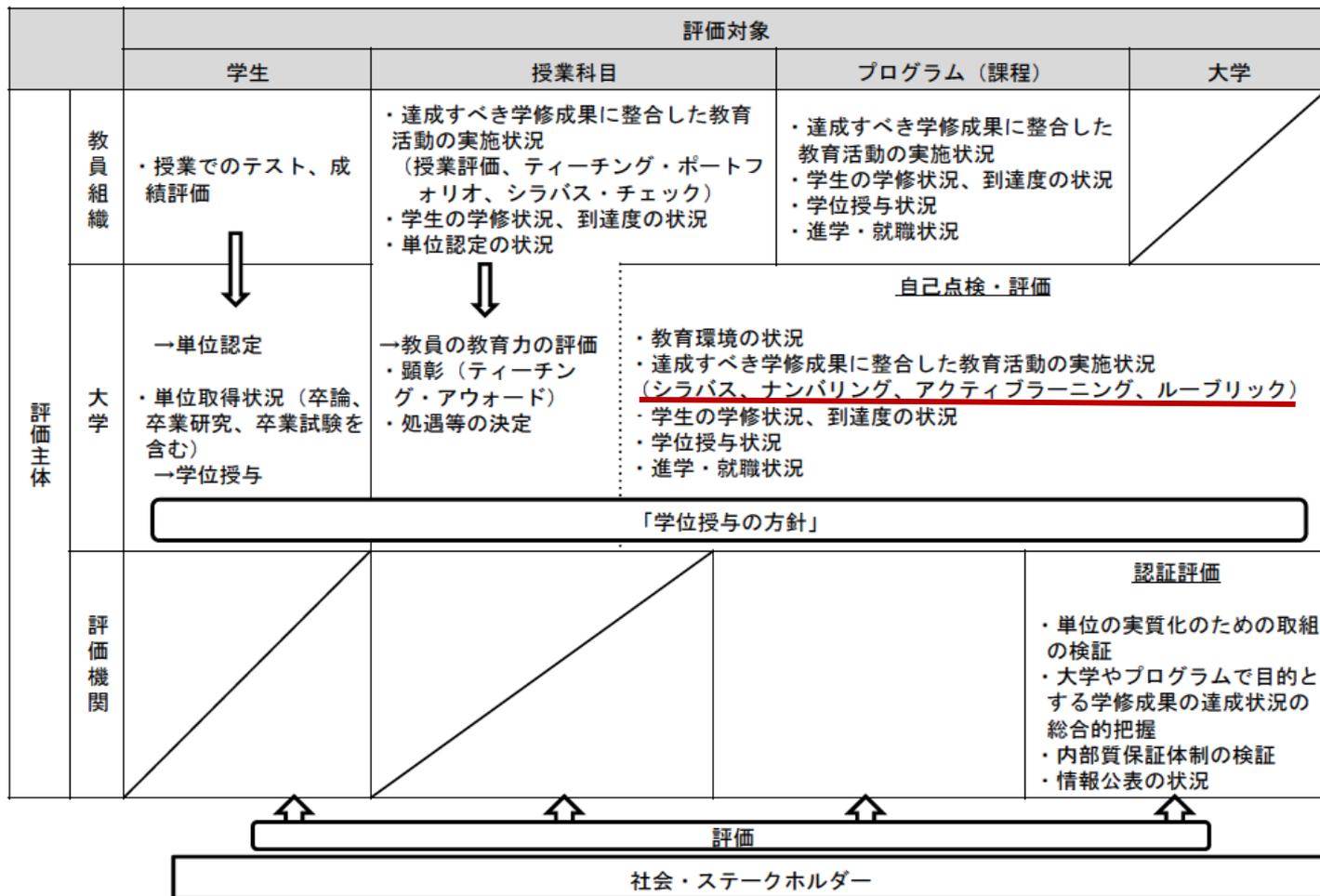
1-3 PROGの有効性

2 ジェネリックスキルの育成における成果と課題

中教審大学分科会「審議のまとめ」(2013年3月)

■ ラーニングアウトカムの内容をルーブリックとして明示化

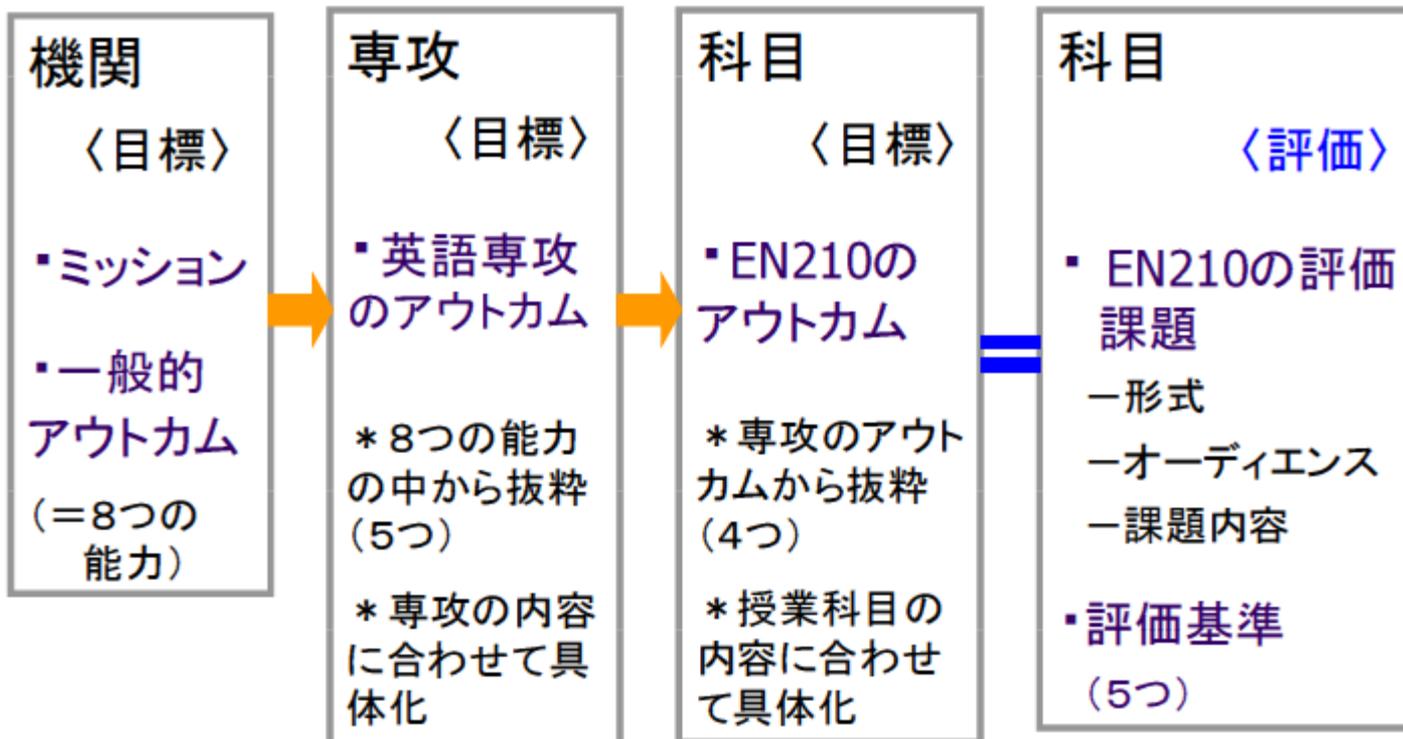
学修成果を重視した評価について



(別添3)

評価の枠組み

- DP—CPを踏まえた科目設計の中でGSを位置づける
 - 機関—専攻(major)—科目(course)
 - アルバーノカレッジ「英語科目」の例



1-1 評価の現状と成果

金沢工業大学シラバス

平成22年度 学習支援計画書

再生紙を使用しています。

授業科目区分	科目名	単位	科目コード	開講時期	履修条件
修学基礎教育課程 修学基礎科目 修学基礎	コアガイド (EM) Introduction to Major	1	0005-01	4期 (後学期)	修学規程第5条別表第2を参照
担当教員名	研究室	内線電話番号	電子メールID		オフィスアワー

(中 略)

D, J, M		確率・統計の基礎を理解するとともに、データの取りまとめや分析に応用することができる。							
達成度評価									
指標と評価割合	評価方法	試験	クイズ 小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
	総合評価割合		0	45	45	0	0	10	0
総合力指標	知識を取り込む力	0	15	10	0	0	0	0	25
	思考・推論・創造する力	0	15	10	0	0	0	0	25
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表・表現・伝達する力	0	5	10	0	0	0	0	15
	学習に取り組む姿勢・意欲	0	10	15	0	0	10	0	35

※総合力指標で示す数値内訳は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

立教大学経営学部シラバス

経営学部経営学科のカリキュラム				経営学部の学習成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)						
科目名	科目区分	配当年次	科目の学習成果	1)高い倫理観を持って行動できる	2)良好な人間関係を構築し、協働的に作業ができる	3)英語以外の外国語による運用能力の(平易な会話、読み・書き)養成	4)自律的・創造的に研究・調査できる能力の養成	5)経営学全般に関する知識の応用	6)課題を分析し、ビジネス・プロジェクトを論理的に立案・実行	7)ビジネス分析ツールの活用と、問題解決のためのリーダーシップの養成
経営学入門・経営学基礎	必修科目	1	省 略	△			△	◎	○	
ミクロ経済学	必修科目	1					◎	○		
マクロ経済学	必修科目	1					◎	○		
基礎演習	選択科目 基礎科目	1		○	◎					○
グッドビジネス	選択科目 基礎科目	1		○			△	◎	△	
ファイナンシャル・マネジメント	選択科目 基礎科目	1~4 (1・2年)		○			○	◎	○	○
組織マネジメント	選択科目 基礎科目	1~4 (1・2年)		△			△	○	◎	
マーケティング	選択科目 基礎科目	1~4 (1・2年)					○	◎	○	

評価の方法

■ 成長のエビデンス:ポートフォリオ

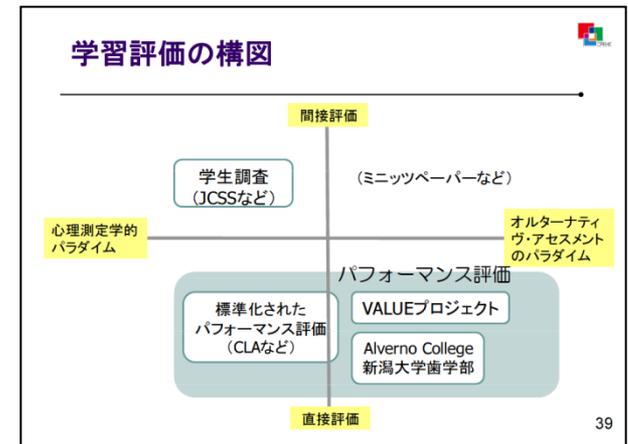
- 学生の活動や成果の記録と振り返り
- 教員のコメント

■ 間接的評価:学生自身の自己評価

- 自己評価シート、アンケート、ルーブリックを用いたセルフチェック 等
(個人の認知に基づく主観評価)

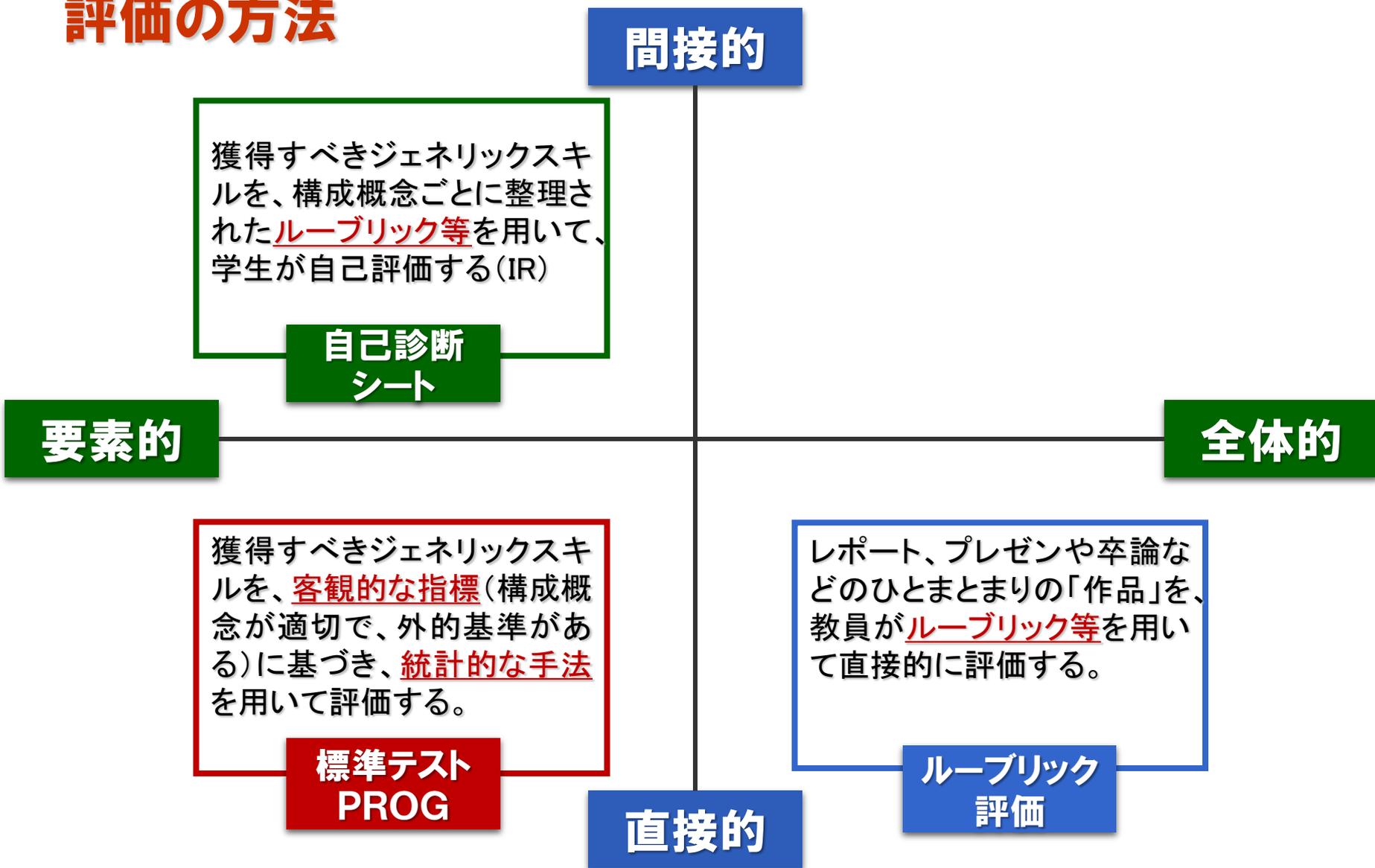
■ 直接的評価:成果・活動そのものの評価

- プレゼンテーション等のパフォーマンス評価、評価者による多面評価等
(評価基準をルーブリック等で明確にし、評価訓練を受けた者が客観的に評価)
- 標準化テスト(共通テスト) 等
(外的基準に照らした客観評価)



松下佳代(京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授)

評価の方法



評価の「妥当性」「信頼性」「実現可能性」

- **妥当性**: 育てたい力の内容を評価しているか？
 - ルーブリックの妥当性 → 教育と社会・企業との接合？
 - **信頼性**: 評価者は育てたい力を正しく評価しているか？
 - 評価者による評価のバラツキ → ex.高校の内申書
 - **実現可能性**: 評価者が実施可能な評価方法か？
 - すばらしい評価方法でも皆が実施できなければ意義が薄れる！
 - 評価疲れ！
- 
- **妥当性と信頼性を持ち、かつ実現可能な評価方法を探る**

評価の「妥当性」「信頼性」「実現可能性」

■ 評価対象と評価方法の適合性

- レポート、プレゼンなどの成果物 → ルーブリックを用いた評価
- 獲得すべき各々のジェネリックスキル → 標準化された客観テスト



■ 評価の全体像をデザインする

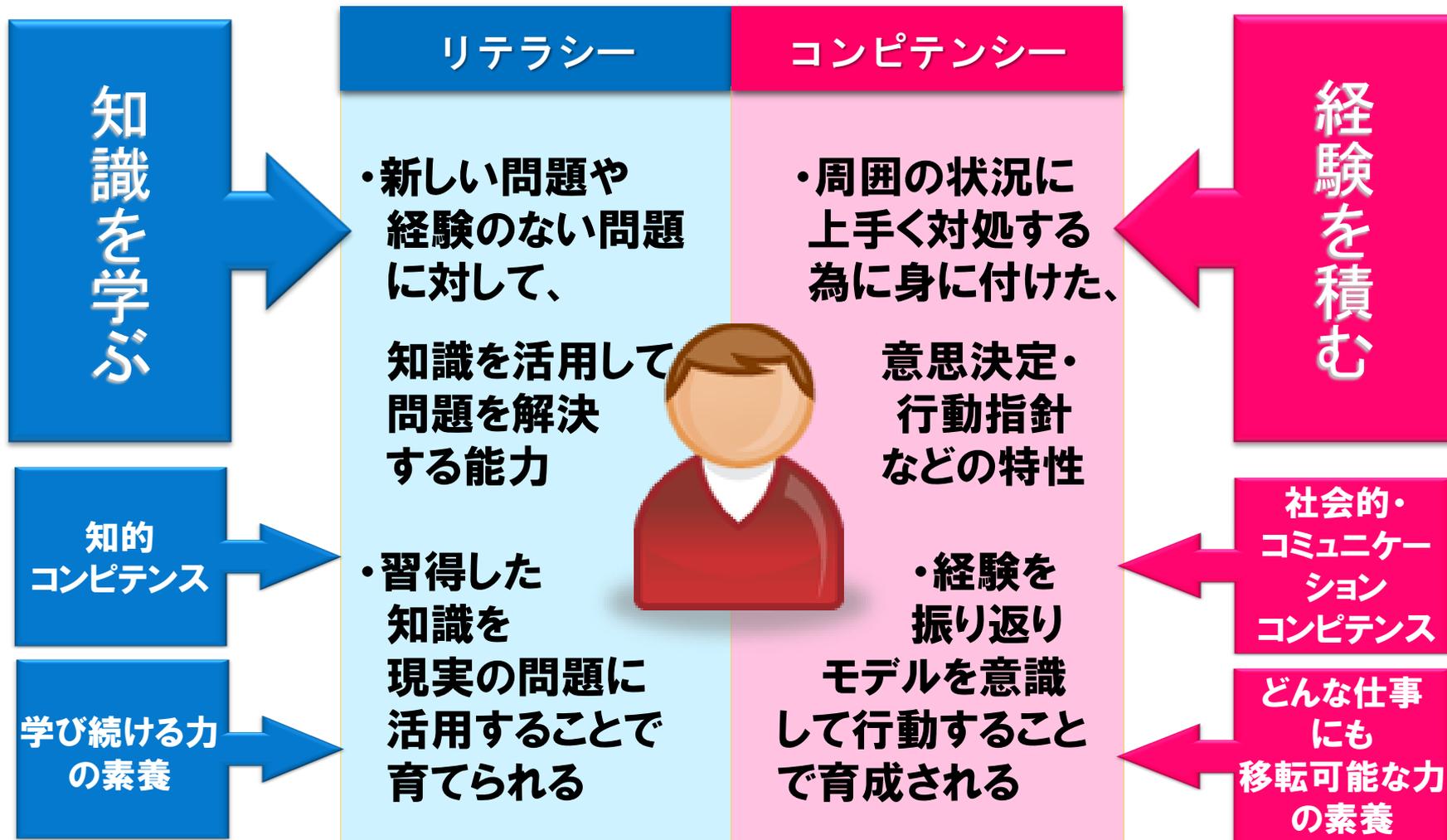
- 目的、対象に合わせて評価方法を変える
- だれが、だれを、何の目的で、いつ、どのように評価するか
- DP—CPを踏まえた複合的な「評価の全体像」をデザインする
(複数の評価手法を、目的に合わせて、組み合わせて利用する)

PROG (Progress Report of Generic skills)

- 評価の妥当性(構成概念の妥当性①②、予測妥当性③④)
 - ① OECD・DeSeCo「キー・コンピテンシー」との親和性
 - ② 「学士力」「社会人基礎力」との親和性
 - ③ 企業社会との親和性(企業のハイパフォーマーを基準とする)
 - ④ 就職やキャリア形成との親和性
- 評価の信頼性
 - ⑤ 潜在ランク理論によるランクの確定と個人のランク所属確率の算出
 - ⑥ データの蓄積による信頼性の向上
- 評価の実行可能性
 - ⑦ 短時間で実施可能(90分)＋複数回実施可能(1年次→4年次など)
 - ⑧ 大学ごとの教育目標との融合

1-3 PROGの有効性 評価の妥当性

- PROGは、「リテラシー」と「コンピテンシー」の2側面からジェネリックスキルを測定。
- 「リテラシー」とは、知識を基に問題解決にあたる力。知識の活用力や学び続ける力の素養をみる。
- 「コンピテンシー」とは、環境に効果的に対処するために身に付けた行動特性。どんな仕事にも移転可能な力の素養をみる。

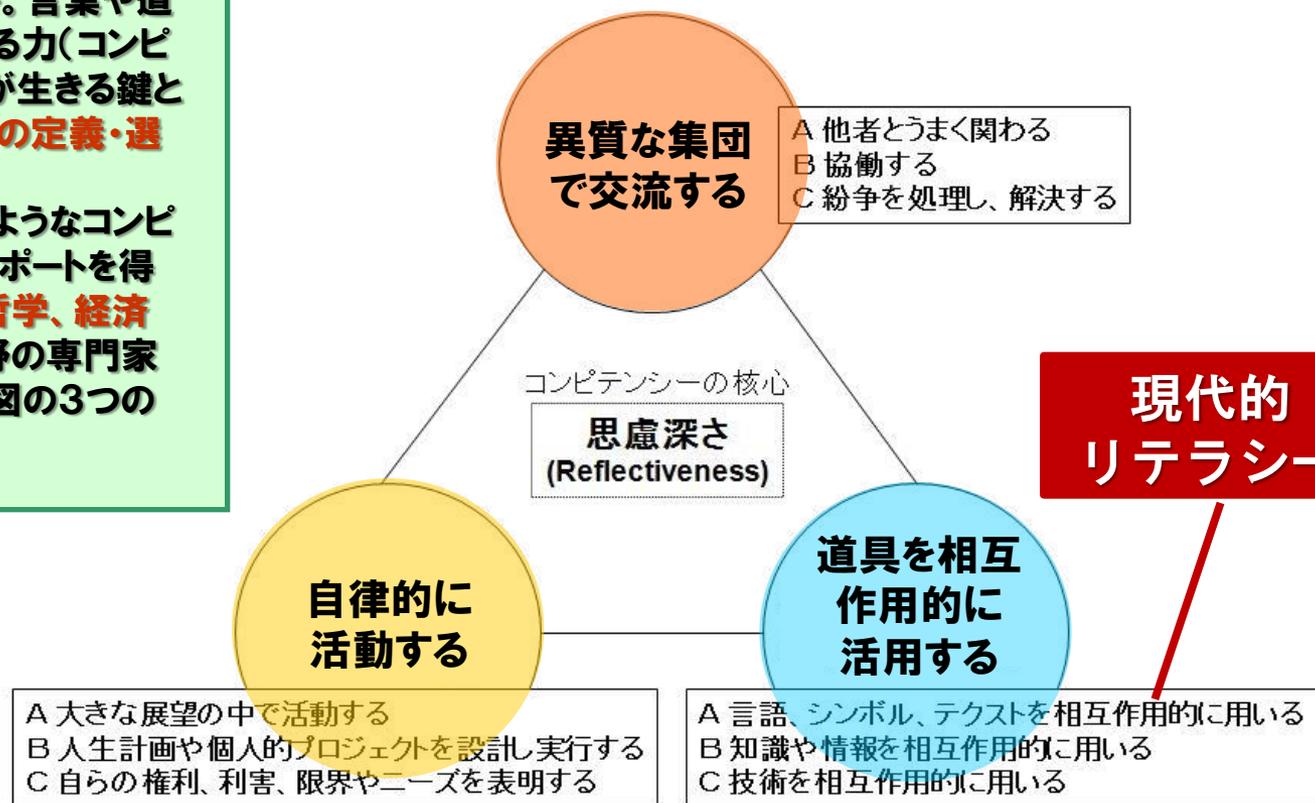


OECDのDeSeCoプロジェクトとは

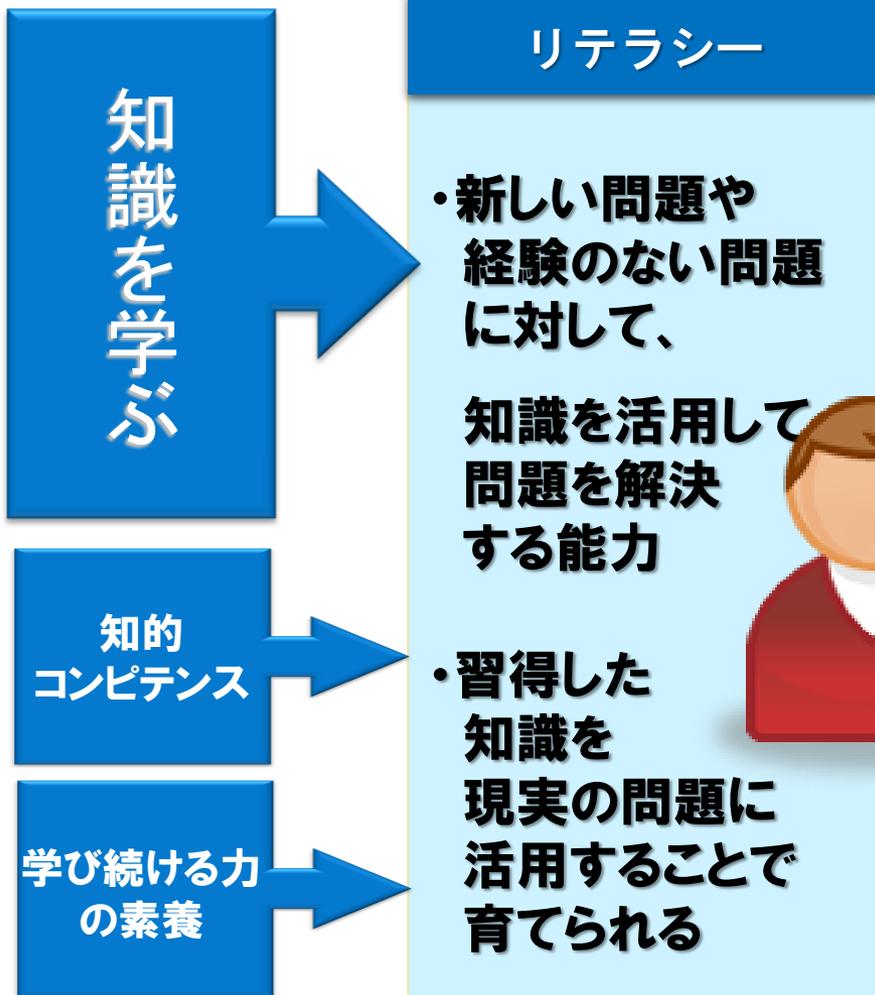
OECDが1999年～2002にかけて行った、国際合意の基で新たな能力概念を定義しようとしたプロジェクト。言葉や道具を行動や成果に活用できる力(コンピテンス)の複合体として、人が生きる鍵となる力、**キー・コンピテンシーの定義・選択**を行った。

12の加盟国から今後どのようなコンピテンシーが重要となるかのレポートを得て、その結果を**教育学から哲学、経済学、人類学など**、様々な分野の専門家が学際的な討議を行い、右図の3つのカテゴリーにまとめた。

3つのキー・コンピテンシー



国立教育政策研究所HPより作成(2012.7時点)



OECD DeSeCoプロジェクトによる「キー・コンピテンシー」との対応

■ 道具を相互作用的に活用する力

- 言語・シンボル・テキストを相互作用的に活用する力
 - ・言語スキル(話し言葉、書き言葉)や、数学的スキル(グラフ、表、その他さまざまなシンボル)を活用し、**社会的コミュニケーションに効果的に参加すること**
- 知識や情報を相互作用的に活用する力
 - ・情報の特徴、社会的・イデオロギー的な文脈を批判的に考察することを前提に、**知識や情報を自律的に見つけ、思慮深く、責任を持って活用すること**
- 技術を相互作用的に活用する力
 - ・情報・通信・コミュニケーション・コンピュータ技術の目的や機能を理解して、**課題に対する技術的な解決策を見出すこと**

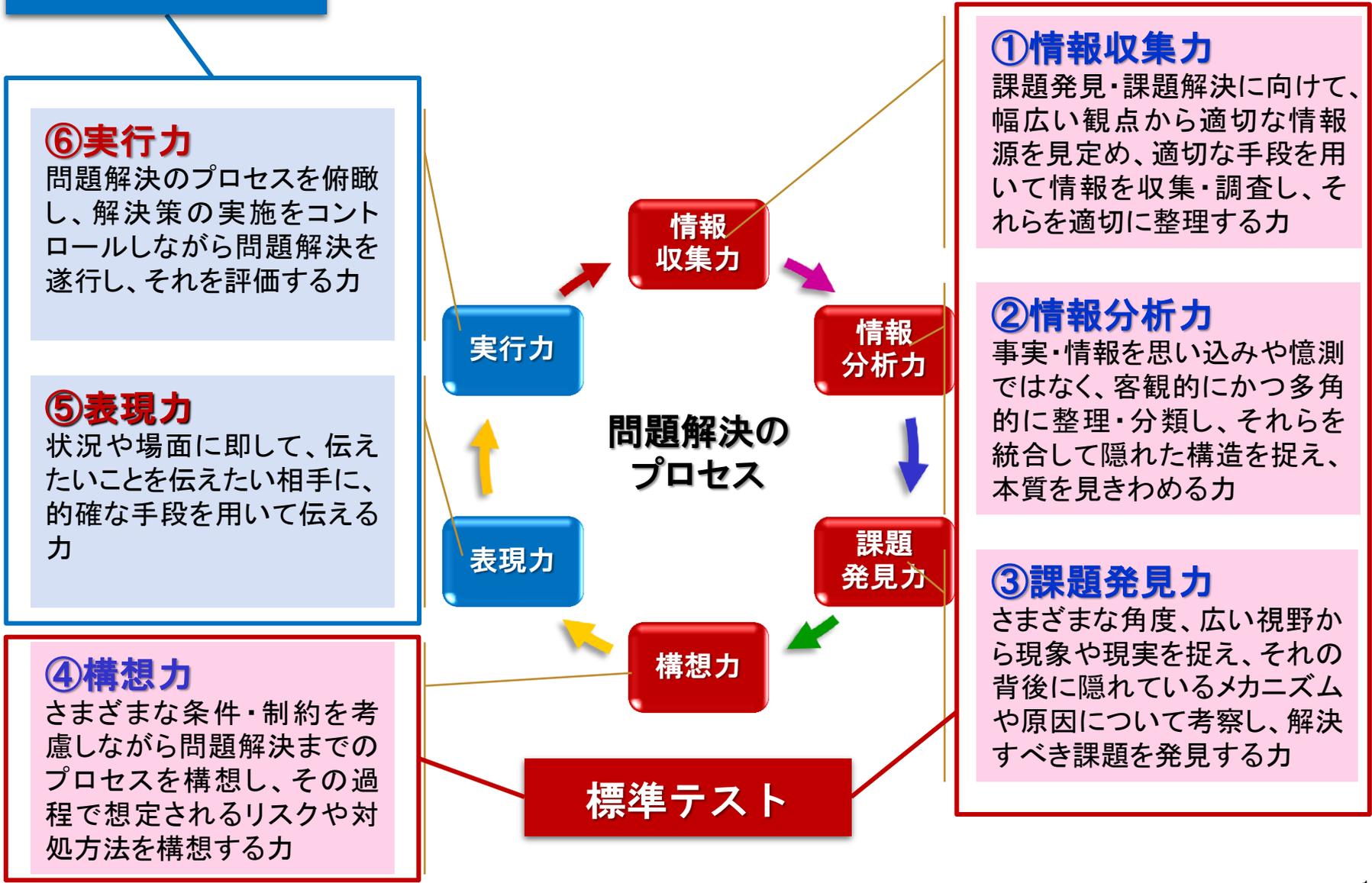
新学習指導要領の基本方針との対応

■ 思考力・判断力・表現力等

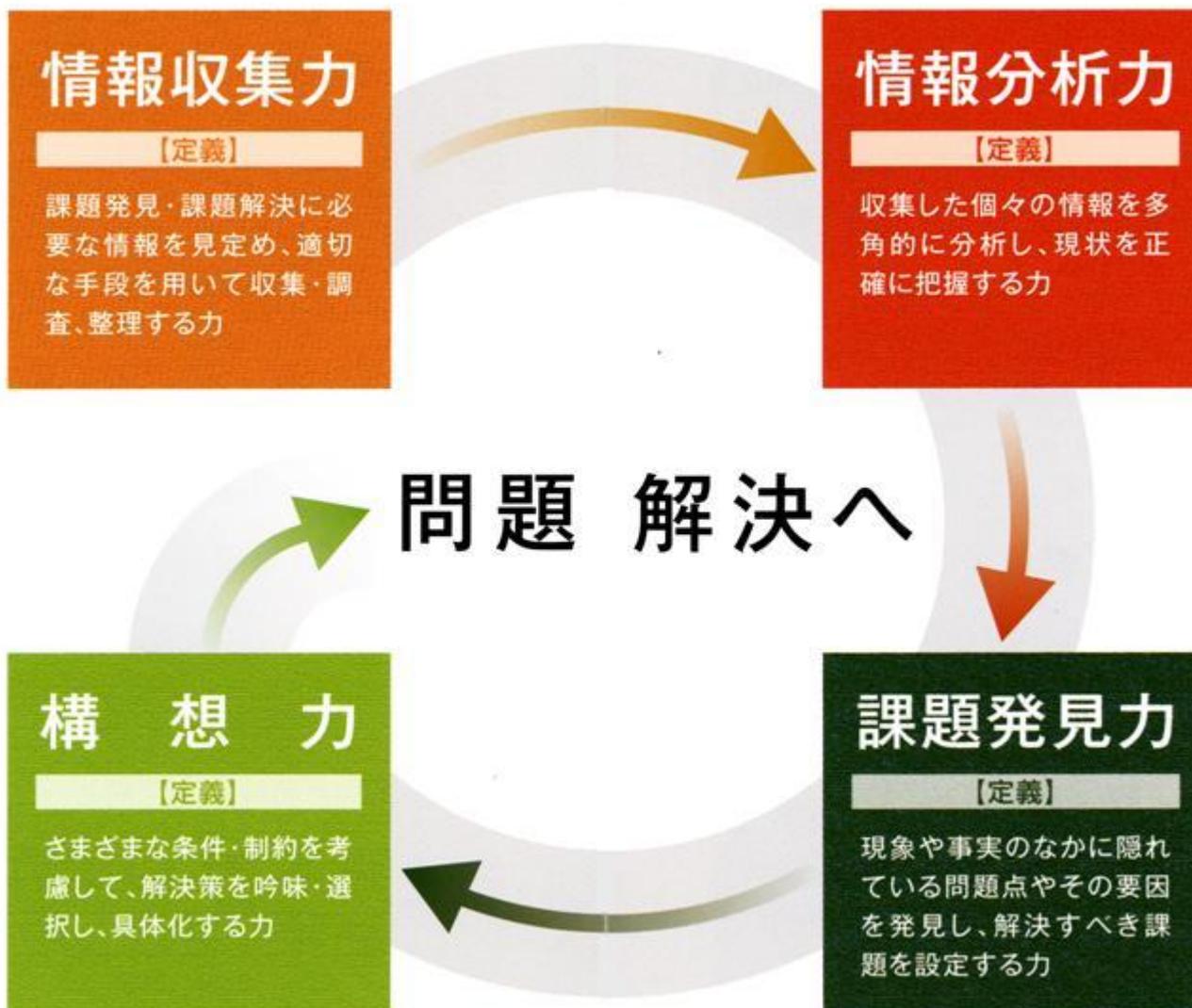
- 習得した知識・技能を相互に関連付けながら総合的な課題の解決にあたる力

ループリック評価

問題解決のプロセスと6つの力



問題解決のプロセスに沿って整理 質問紙法に適した4つの領域を測定



①情報収集力

テスト項目

- 1) **情報検索** 情報源の特性／目的に応じた情報検索の方法など
- 2) **情報の整理・保存** 情報を適正かつ効果的に活用するための方法など
- 3) **アンケート・インタビュー(一次情報の収集)** 目的に応じたアンケート・インタビューの方法など

問題のサンプル

下のA～Fの見出しのついた記事を、「芸能」「スポーツ」「経済」「外交」の4項目に分類した場合、最も不適切な分類の組み合わせを、次の①～⑤から選んでください。

- A.「広がる最新通信機器」
- B.「あの日本が誇るアイドルユニット中国へ」
- C.「凱旋帰国ジャパンサッカー
バラエティー番組でもモテモテ」
- D.「イチロー 難民に寄付」
- E.「新薬安価で製造へ」
- F.「ODAでまた癒着発覚」

① A「経済」 F「経済」

② C「スポーツ」 D「外交」

③ E「外交」 F「経済」

④ B「外交」 E「経済」

⑤ B「経済」 F「外交」

②情報分析力

テスト項目

- 1) データ・グラフの読み取り(+非言語処理能力) 正確な読み取りと考察／複数のグラフの読み取りの統合など
- 2) 文献・資料の読み取り(+言語処理能力) 語彙の理解／主題の読み取り／構造的な理解など
- 3) 批判的な分析 事実と意見の区別／多角的な視点／論証の検証など

問題のサンプル

右のグラフは小学校における学年ごとの国語学力の伸長を示したものです。このグラフに関する見解として正しいものを①～⑤の中から1つ選んでください。

- ① 3年生では学力の二極化が顕著に見られる。
- ② 1年生の学力差は就学前の学習量が原因と考えられる。
- ③ 学年が進むにつれ学力が平均化する傾向が見られる。
- ④ 3年生以降、生徒の学力は伸び悩む傾向が見られる。
- ⑤ 学年が進むにつれて学力の格差が広がっている。

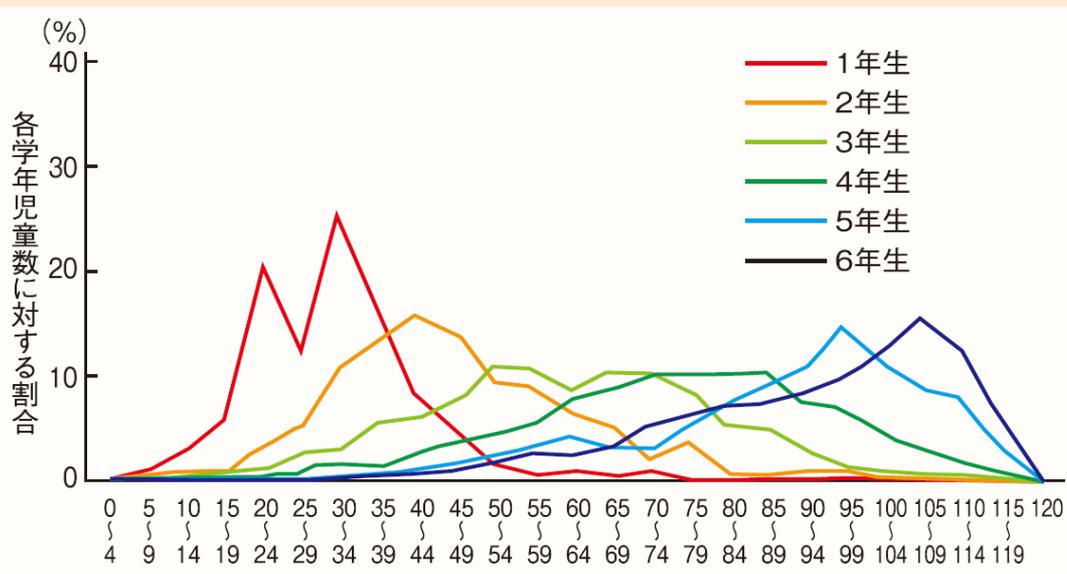


図9-1 小学校国語学力到達テスト(読解)の得点分布(天野・黒須, 1992)

(『文章理解の心理学』大村彰道監修 村田喜代美 久野正樹編 北大路書房p135)

③課題発見力

テスト項目

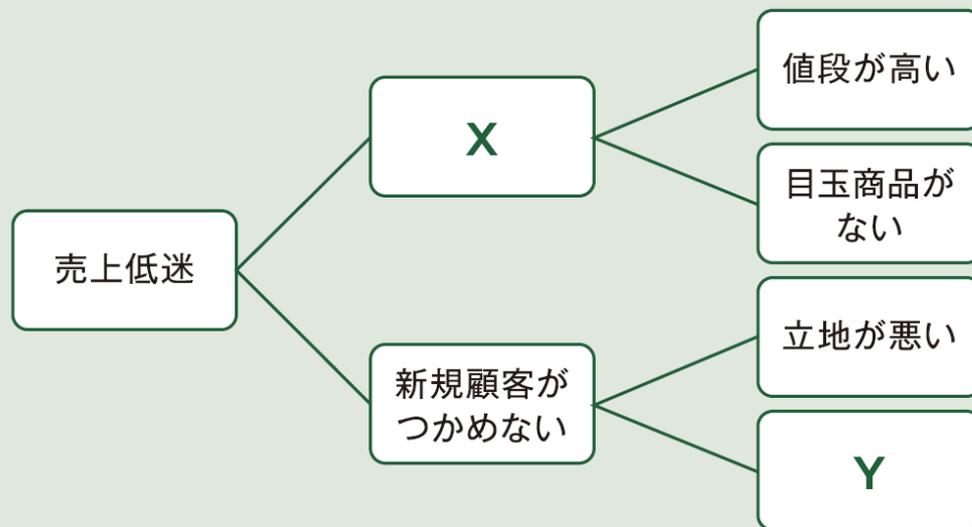
- 1) 問題の洗い出し ブレインストーミング／SWOT分析など
- 2) 問題の整理・分析 問題の構造化／原因追求(親和図法・ロジックツリー)など
- 3) 課題の設定 問題の優先順位／資源の分析／課題の明確化など

問題のサンプル

以下は、ある洋菓子屋の売上低迷の原因についてロジックツリー※を使って探究したものです。ロジックツリーの空欄X・Yに適切な文言を、選択肢から選んで答えてください。

※ロジックツリーとは：物事を論理的に分析・検討するときに、その論理展開を樹形図に表現して考えていく思考技法

- ① 売り上げが上がらない
- ② もともとケーキがあまり美味しくない
- ③ 既存顧客の購入活動の低下
- ④ 既存顧客の高齢化
- ⑤ 広報・宣伝活動の不足



④ 構想力

テスト項目

- 1) 解決策のアイデア出し ブレインストーミング／チェックリスト法など
- 2) 解決策の絞り込み 資源の分析／比較・検討(マトリックス・ロジックツリー)など
- 3) 解決策の具体化 行動計画／リスク対応／作業工程表など

問題のサンプル

Aさんは、大学のゼミにおいて、「国際化」というテーマでグループ発表をすることになりました。各グループの持ち時間は質疑応答を含めて10分間。「国際化」についてどのような観点で発表するかは各グループに任されています。プレゼンテーション本番は20日後です。プレゼンテーション本番までのプロセスを意識しながら、プレゼンテーションを実行するために必要な作業工程表を以下の項目を基にして作成してください。

- a. パワーポイント作成
- b. 情報収集やアイデアの洗い出し
- c. グループのテーマ決定
- d. 情報収集、情報分析
- e. 発表内容の決定
- f. リハーサル、修正
- g. 本番の振り返り
- h. 役割分担

■ プレゼンテーションまでの作業工程表解答例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金		
b	←→																					
c			←→																			
h			←→																			
d			←→																			
e										←→												
a													←→									
f																	←→					
本番																					●	
g																					←→	

OECD DeSeCoプロジェクトによる「キー・コンピテンシー」との対応

■社会的に異質な集団で交流する力

- 他者とうまく関わる力
 - ・相手の価値観、信念、文化的背景に共感し、自分の情動をコントロールして関係を維持・継続すること
- 協力する力
 - ・共通の目的に向って、他者と協力し、一緒に仕事をする事
- 対立を処理し、解決する力
 - ・対立する利害を調整し、または許容して解決策を見つけ出すこと

■自律的に活動する力

- 大きな展望の中で活動する力
 - ・システムの中で、自ら役割を決定し、行動の影響を予測し、コントロールすること
- 人生計画と個人的なプロジェクトを設計し、実行する力
 - ・楽観主義と自尊感情を前提に、自己を管理し、自ら学習して新しい仕事に取り組むこと
- 自らの権利・利益・限界・ニーズを守り、主張する力



コンピテンシー

・周囲の状況に上手く対処する為
に身に付けた、

意思決定・行動指針などの特性

・経験を振り返りモデルを意識して行動することで育成される

経験を積む

社会的・コミュニケーション
コンピテンス

どんな仕事にも
移転可能な力の素養

1-3 PROGの有効性 ②「社会人基礎力」「学士力」

PROGのコンピテンシー (リクルートと共同定義した基礎力)		内容	構成要素	社会人基礎力 (経済産業省)		学士力 (文部科学省)			
対課題 基礎力	課題発見力	問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	情報収集・本質理解・原因分析 など	考え抜く 力 (シンキング)	課題発見力	汎用的 技能	問題解決力		
	計画立案力	問題解決のための効果的な計画を立てる	目標設定・シナリオ構築・計画評価・リスク分析 など		計画力		論理的思考力		
	実践力	効果的な計画に沿った実践行動をとる	実践行動・修正・調整・検証・改善 など		創造力		情報リテラシー		
対人 基礎力	親和力	円満な人間関係を築く	親しみ易さ・気配り・対人興味・多様性理解・人脈形成 など	チームで 働く力 (チームワーク)	発信力		数量的スキル	数量的スキル	
	協働力	協力的に仕事を進める	役割理解・連携行動・相互支援・相談・指導・他者の動機付け など		傾聴力			コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキル
	統率力	場をよみ、目標に向かって組織を動かす	意見を主張する・創造的な討議・意見の調整・交渉・説得 など		柔軟性				チームワークリーダーシップ
対自己 基礎力	感情制御力	気持ちの揺れをコントロールする	セルフアウェアネス・ストレスコーピング・ストレスマネジメント など		状況把握力		市民としての社会的責任		
	自信創出力	ポジティブな考え方やモチベーションを維持する	独自性理解・自己効力感・楽観性・機会による自己変革 など		規律性			態度・志向性	
	行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける(学習行動を含む)	主体的行動・完遂・良い行動の習慣化 など		ストレスコントロール				自己管理力
対自己 基礎力	感情制御力	気持ちの揺れをコントロールする	セルフアウェアネス・ストレスコーピング・ストレスマネジメント など	前に踏み出す力 (アクション)	主体性	態度・志向性	生涯学習力		
	自信創出力	ポジティブな考え方やモチベーションを維持する	独自性理解・自己効力感・楽観性・機会による自己変革 など		働きかけ力		自己管理力		
	行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける(学習行動を含む)	主体的行動・完遂・良い行動の習慣化 など		実行力		生涯学習力		

求人段階で求められる能力から導出 「対課題」・「対人」・「對自己」の領域に整理

リクナビ掲載企業
のうち、32業種
計960社の選考
基準のテキスト
分析

PROGのコンピテンシー (リクルートと共同定義した基礎力)		内容
●対課題 基礎力	課題発見力	問題の所在を明らかにし、 必要な情報分析を行う
	計画立案力	課題解決のための効果的 な計画を立てる
	実践力	効果的な計画に沿った実 践行動をとる
●対人 基礎力	親和力	円満な人間関係を築く
	協働力	協力的に仕事を進める
	統率力	場をよみ、目標に向かって 組織を動かす
●對自己 基礎力	感情制御力	仕事場面での気持ちの揺 れをコントロールする
	自信創出力	ポジティブな考え方やモチ ベーションを維持する
	行動持続力	主体的に動き、良い行動 を習慣づける (学習行動を含む)

掲載件数
555件
124件
141件
65件
206件
469件
131件
88件
635件

両側選択形式

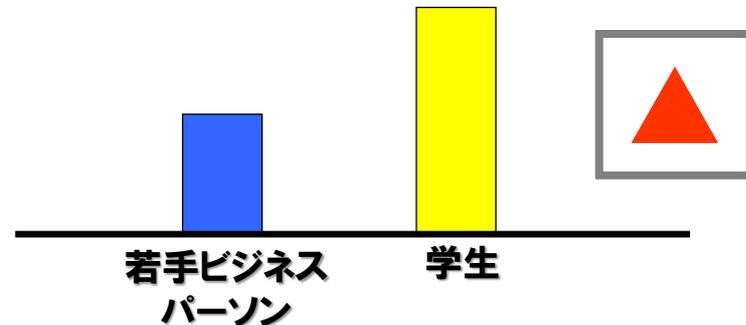
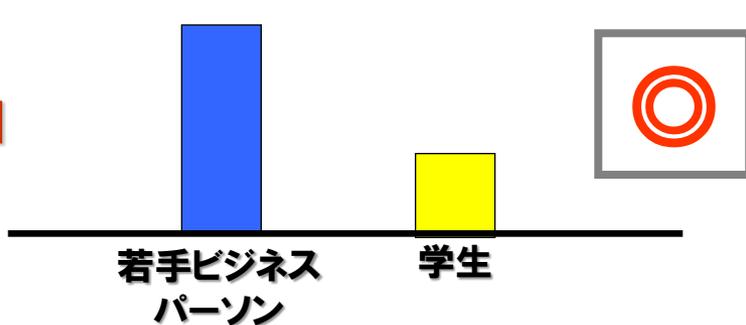
連番	A	B
1	初対面の人と話すときでも、相手と距離をおかず親しく接する	初対面の人と話すときには、距離をとって礼儀正しく接する
2	人に接するときは、壁をつくらず本音で会話する	人に接するときには、礼儀を大切にして丁寧に話す
3	感情に流されず、客観的な状況を分析して判断を下してきた	客観的な情報よりも、人の気持ちや人間関係に配慮して判断を下してきた
4	チームでものごとに取り組むときには、自分から率先して行動してきた	チームで物事に取り組むときには、周りに合わせて行動してきた
5	多少失礼だと思われても、相手の懐に飛び込んでいく	失礼のないように、慎重に言葉を選んで話す
6	おせっかいだと思われても、周りにいろいろと気を回す	相手の自尊心を傷つけないように、必要以上に余計な世話は焼かない

1-3 PROGの有効性 ③企業社会(ハイパフォーマー)

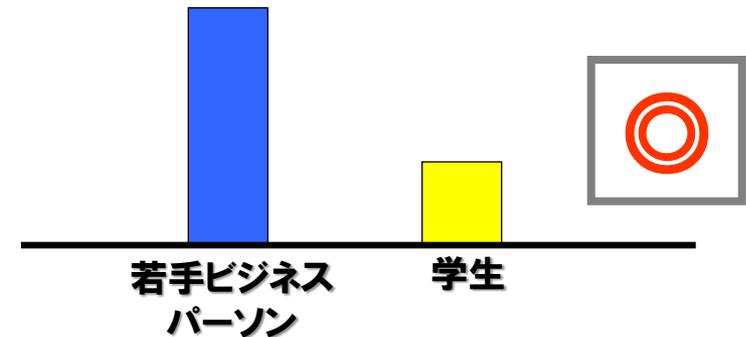
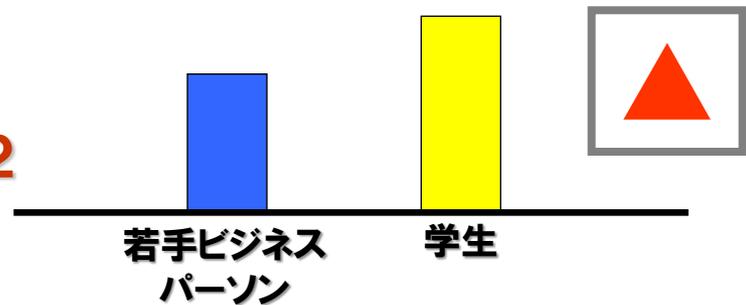
社会で活躍する若手ビジネスパーソン(※)と学生の回答のパターンを比較し、統計的に違いがある設問項目を抽出する(特性抽出)

連番	A	B
1	初対面の人と話すときでも、相手と距離をおかず親しく接する	初対面の人と話すときには、距離をとって礼儀正しく接する

設問1



設問2



学生が意識的に虚偽の回答をした場合にも有意に差がある項目を中心に採用

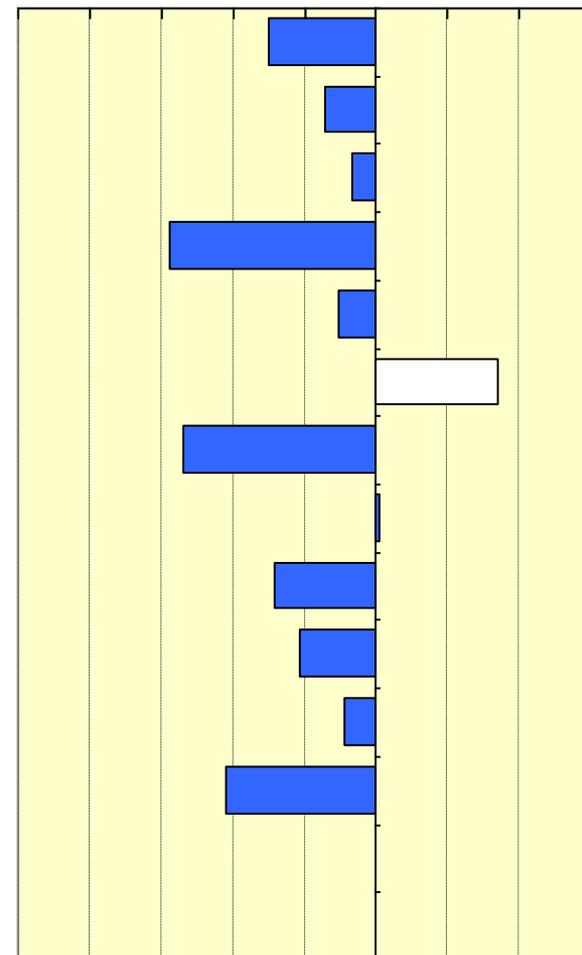
※30代前半までに、役職についているか、または実質管理しているメンバーが複数いるビジネスパーソン

1-3 PROGの有効性 ④就職・キャリア形成

全てが統計的に有意とは言えないが、基礎力は概ね早期内定獲得者の方が高い。

A大学		① 内定:0社 (64人)	② 内定:1社以上 (84人)	平均値差 (①-②)	Pr> t
		平均値	平均値		
総合	対課題基礎力	51.0	52.5	-1.5	0.378 s
	対人基礎力	49.5	50.2	-0.7	0.632 s
	對自己基礎力	50.4	50.7	-0.3	0.820 s
対課題基礎力	情報収集力	49.8	52.7	-2.9	0.045 s
	情報分析力	53.0	53.5	-0.5	0.768 s
	課題発見力	51.6	49.9	1.7	0.396 s
	構想力	48.4	51.1	-2.7	0.078 s
対人基礎力	親和力	50.1	50.1	0.0	0.981 s
	協働力	49.0	50.5	-1.4	0.362 s
	統率力	49.3	50.4	-1.1	0.474 s
對自己基礎力	感情抑制力	49.6	50.0	-0.4	0.765 s
	自信創出力	49.2	51.3	-2.1	0.178 s
	行動持続力	49.6	49.6	0.0	0.999 s
	実行力	51.8	51.8	-0.0	1.000 s

-5.0 -4.0 -3.0 -2.0 -1.0 0.0 1.0 2.0 3.0



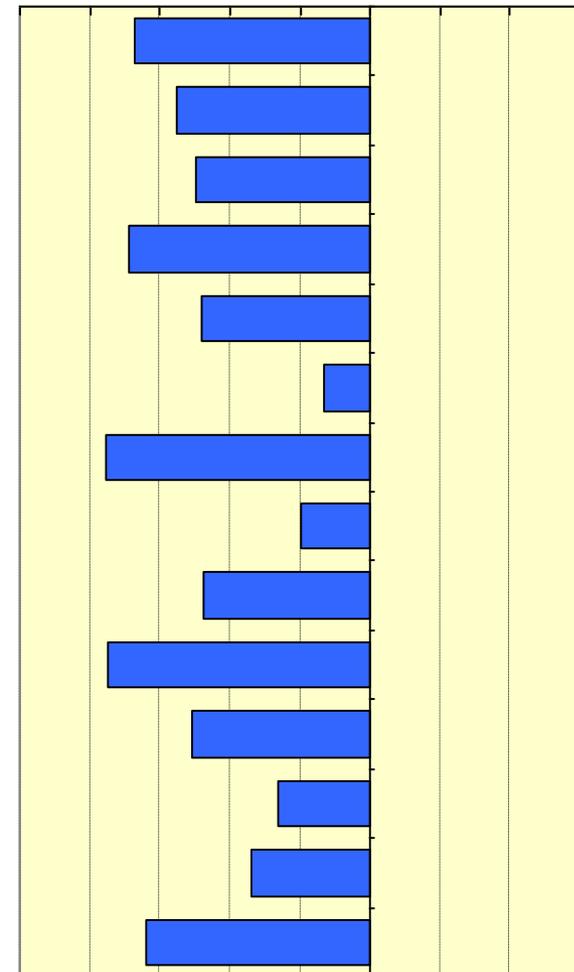
※他の検査との比較のために、基礎力の分類が若干調整されている

1-3 PROGの有効性 ④就職・キャリア形成

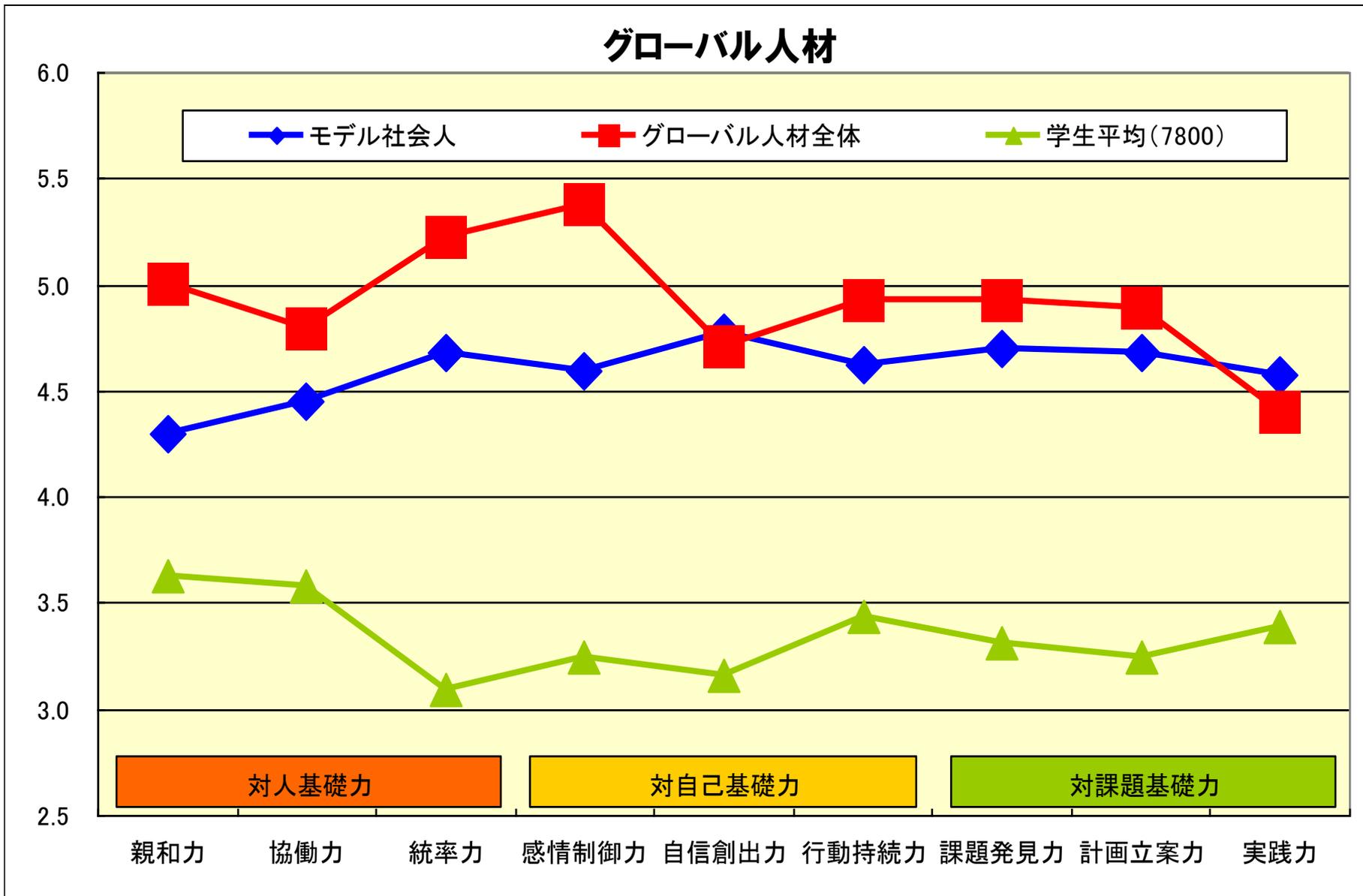
同様に、人気企業に内定する者の方が、基礎力は押しなべて高い。

B大学		①	②	平均値差 (①-②)	Pr> t
		規模800名以上 +金融+大手関 連 未内定	規模800名以上 +金融+大手関 連 内定		
		平均値	平均値		
総合	対課題基礎力	44.6	51.3	-6.7	0.171 s
	対人基礎力	47.3	52.8	-5.5	0.048 s
	對自己基礎力	46.5	51.5	-5.0	0.136 s
対課題基礎力	情報収集力	45.3	52.1	-6.9	0.103 s
	情報分析力	47.6	52.5	-4.8	0.233 s
	課題発見力	45.4	46.7	-1.3	0.755 s
	構想力	44.8	52.4	-7.5	0.085 s
対人基礎力	親和力	48.0	49.9	-2.0	0.555 s
	協働力	47.8	52.5	-4.8	0.094 s
	統率力	47.3	54.7	-7.5	0.022 s
對自己基礎力	感情抑制力	46.3	51.4	-5.1	0.151 s
	自信創出力	47.9	50.6	-2.6	0.470 s
	行動持続力	46.9	50.2	-3.4	0.256 s
	実行力	46.7	53.1	-6.4	0.042 s

-10.0
-8.0 -6.0 -4.0 -2.0 0.0 2.0 4.0 6.0

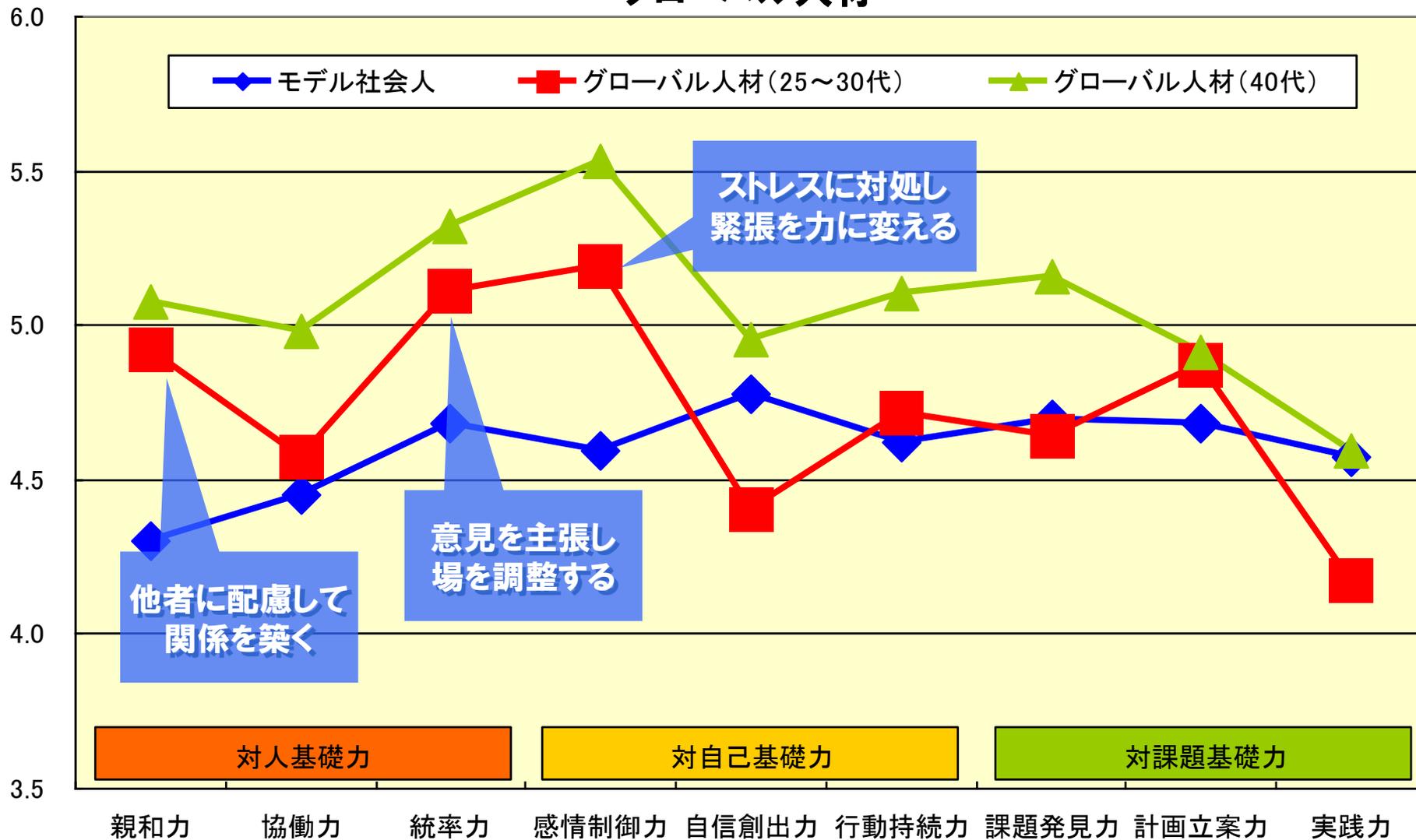


※他の検査との比較のために、基礎力の分類が若干調整されている



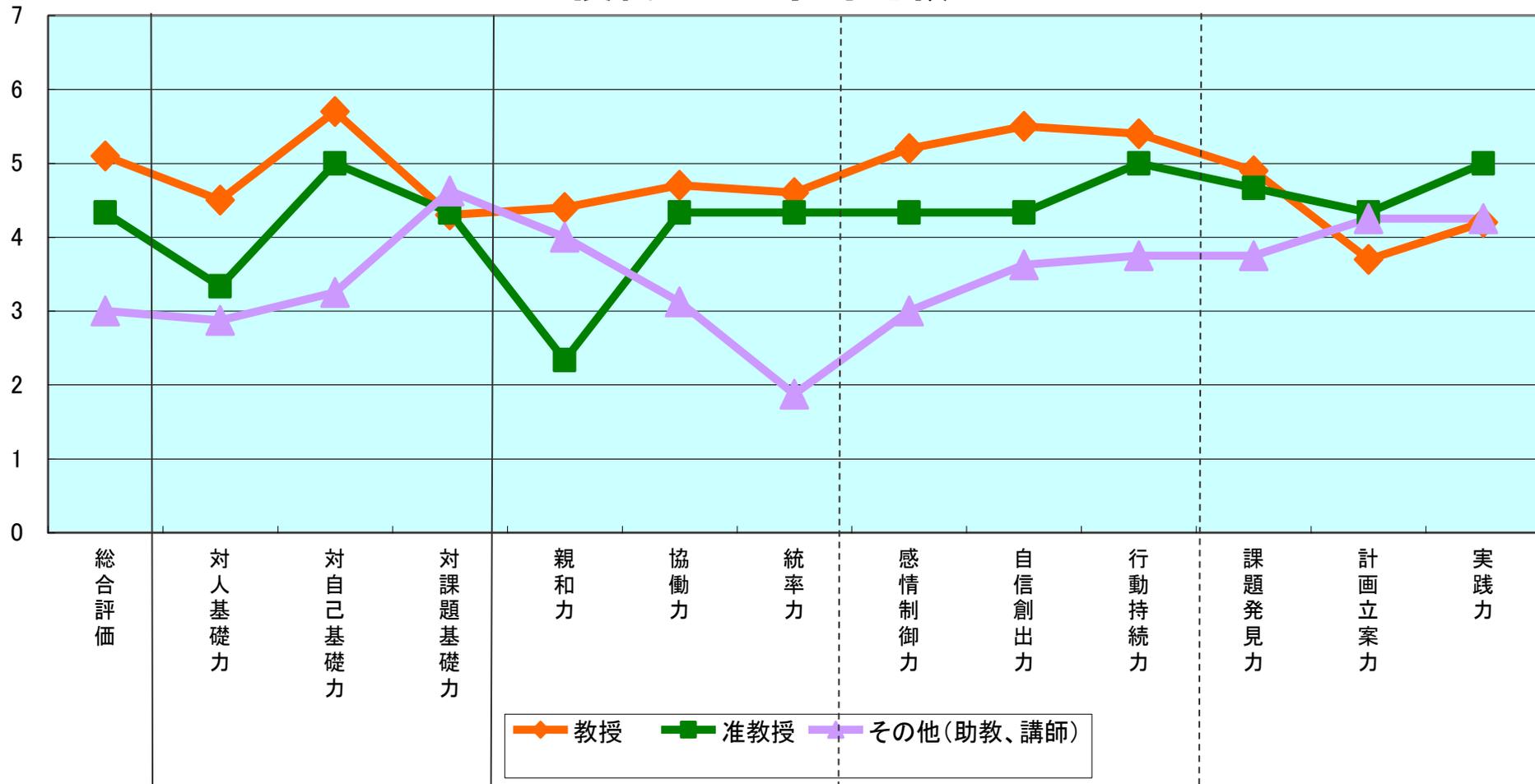
※グローバル人材:25歳~49歳の日本人ビジネスパーソン。アジアにおいて、外国人のマネジメント経験があり、かつ、その当時のマネジメントに満足している者(735人、平均駐在期間は約4年)。

グローバル人材

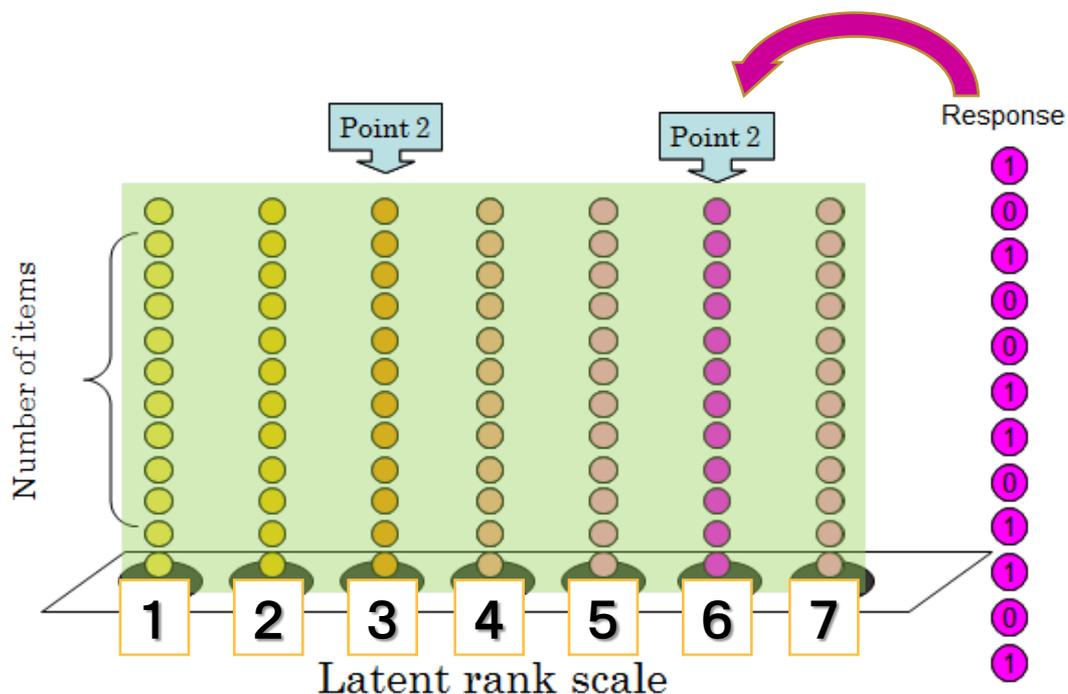


C大学における教員のコンピテンシー

役職ごとの平均比較



潜在ランク理論に基づいて、能力をある幅をもった「レベル」として同定する

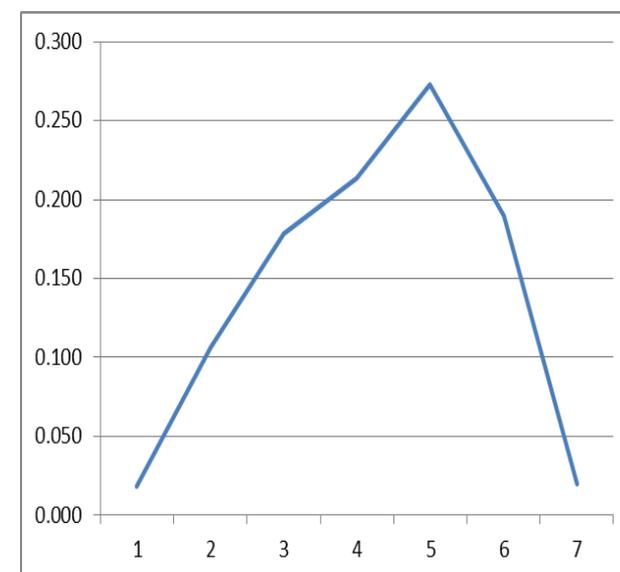
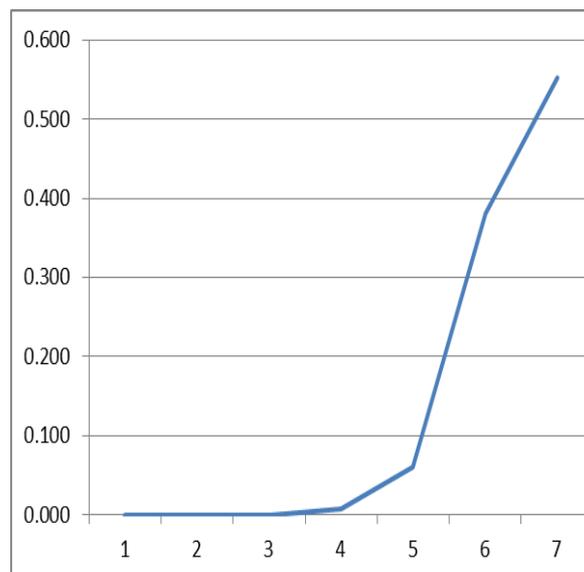
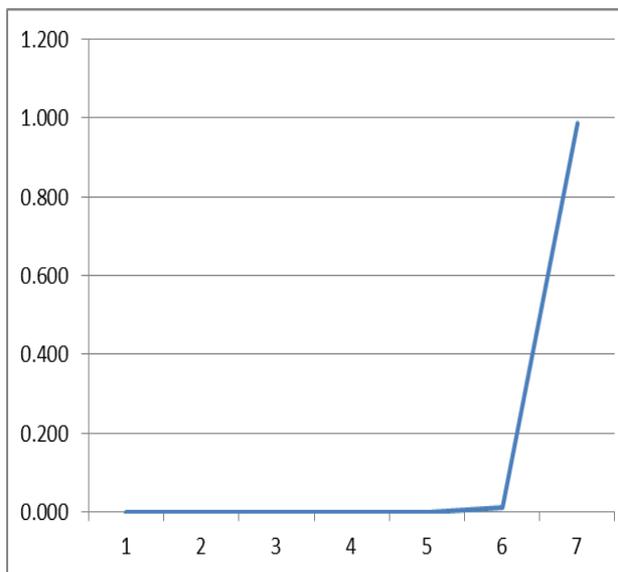


解答結果をレベル毎にパターン化し、
 解答者がどのレベルのパターンに
 近いかを推定することで、
 解答者のレベルの所属確率を計算する。

■ 解答結果から受験者を7レベル(あるいは5レベル)に分類

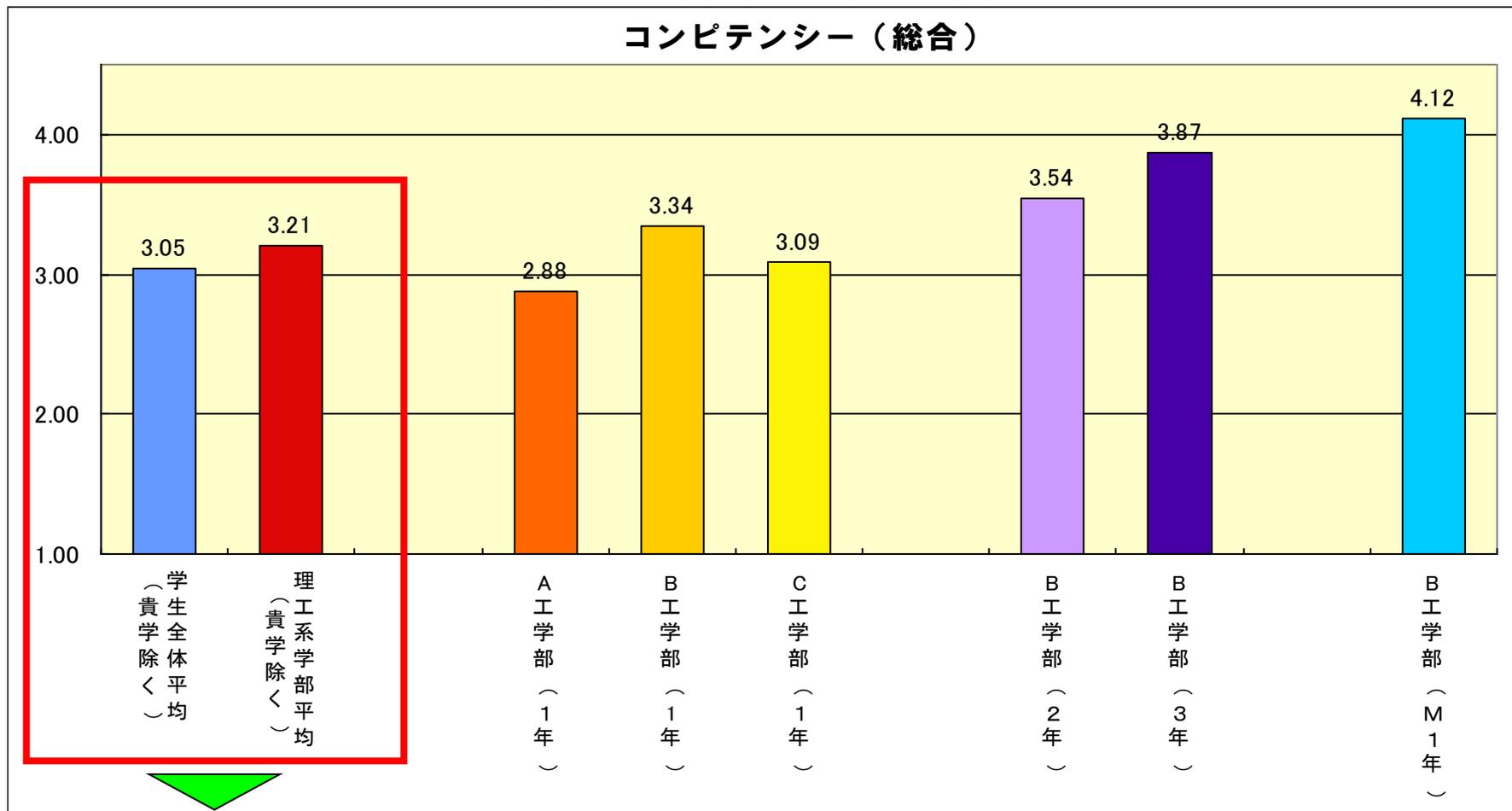
荘島宏二郎 <http://www.rd.dnc.ac.jp/~shojima/ntt/jindex.htm> 閲覧

能力レベルは同じでも、レベルごとの「所属確率」は様々



能力を一義に判定するだけでなく、他のレベルの所属確率を参考に、可能性の示唆や注意喚起を促すことができる。

学校別全体報告書の一例



■発売以降受験者数

(人)

2012年度(4月～3月)受験者	21197
2013年度(4月のみ)受験者	23564
2013年度(5月～)受験予定者	21866
2012年4月以降受験者(延べ)	66627

受験者数の順調な増加によって、比較データ(基準集団)における学生の代表性が高まっている。

1-3 PROGの有効性 ⑦短時間で複数回実施

■受験に必要な時間:

準備等(5分)+リテラシー(45分)+コンピテンシー(40分) ⇒ 計90分

1年生		2年生		3年生		4年生		卒業	
教職員の方々へご提供できる価値									
マーケティング 学生の現状を知る <ul style="list-style-type: none"> 学生の実態を知ることができます 学年別、学部別比較ができます 学生の課題を可視化できます 課題解決へのヒントや道筋が掴めます 学びへの動機づけができます 	施策検証 学生の現状を知る <ul style="list-style-type: none"> 1年次の施策を検証することができます 経年比較ができます 改善できた項目がわかります 改善できなかった点がわかります 次の施策立案に活かせます 	施策検証 学生の現状を知る <ul style="list-style-type: none"> 2年次の施策検証 新たな施策立案 	就職支援 課題別就職支援 <ul style="list-style-type: none"> トップアップ施策 弱者支援 	施策検証 学生の現状を知る <ul style="list-style-type: none"> 3年次の施策検証 新たな施策立案 	出口管理 社会に送り出す <ul style="list-style-type: none"> 成績、成果評価 	OB・OG支援 卒業生の支援 <ul style="list-style-type: none"> 卒業後の支援 OB・OGに社会人講座等を薦める 生涯学習のニーズに対応できます 			
PROG(Progress Report on Generic Skills)受検タイミングとして考えられる時期									
4月 	4月 	4月 	11月-12月 		3月 	通年 			
学生の皆さんへご提供できる価値									
マーケティング 自分の現状を知る <ul style="list-style-type: none"> 社会が求める力を知ることができる 強み弱みを客観的に把握できる 個人ワークで自己理解が深まる 大学生生活の目標を立てる 大学生生活の計画を立てる 	振り返りと計画 自分の現状を知る <ul style="list-style-type: none"> 1年次の成長度を確認できる 目標の再設定ができる 	振り返りと計画 自分の現状を知る <ul style="list-style-type: none"> 2年次の成長確認 目標の再設定 	就職活動 自己PRの作成 <ul style="list-style-type: none"> 自己PR作成 エントリーシート作成 面接対策 SPI対策 		キャリアデザイン キャリアデザイン <ul style="list-style-type: none"> 次に学ぶことを調べる 進学準備をする 留学準備をする 	キャリアチェンジ キャリアチェンジ <ul style="list-style-type: none"> 転職する 地位や収入をUPする 仕事のレベルをUPする 			

創価大学における就業力とPROG要素との対応

【創価大学の就業力】

【PROG】

大学就業力	定義	中分類	内容/小分類	
1.論理的思考力	複眼的な視点から、論理的に思考を展開する力	リテラシー	課題発見力	問題の洗い出し・整理・分析・課題の設定
			構想力	構想力・解決策の絞込み・解決策の具体化
2.言語表現力	日本語及び外国語を用いて、正確な文章を書き、話す力	リテラシー	言語分析力	言語的処理力
3.数量的分析力	数量的・統計的データを正確に把握し分析する力		数量的分析力	数量的処理力
4.対人基礎力	目標に向けて、他者と協力的に仕事を進める力	コンピテンシー	親和力	親しみ易さ 気配り 対人興味・共感・受容 多様性理解
			協働力	役割理解・連携行動 情報共有 相互支援
5.討議推進力	世界の多様性を理解し、建設的に議論を推進していく力	コンピテンシー	統率力	話し合う 意見を主張する 建設的・創造的討議
6.自己育成力	自らの行動を律し、理想とする自己に近づけていく力	コンピテンシー	感情抑制力	セルフアウェアネス ストレスコーピング
			自信創出力	独自性理解 自己効力感・楽観的思考
7.課題設定力	客観的に情報を収集し、本質的な課題を設定する力	コンピテンシー	行動持続力	主体的行動 完遂
			課題発見力	情報収集 本質理解
8.目標達成力	自らの計画や目標を、具体的に実現していく力	コンピテンシー	計画立案力	目標設定 シナリオ構築
			実践力	行動を起こす 修正・調整 遵法性・社会性
9.創造的思考力	既成概念にとらわれず、独創的に考える力	コンピテンシー	実践力	創造力

1-3 PROGの有効性 ⑧大学の教育目標との融合

九州国際大学における初年次教育とPROGのリテラシー

【PROG・リテラシー】(抜粋)

【初年次】

情報収集力	情報検索	・ 検索手段の特性を知り、目的に応じた検索方法・情報源を使う	
		・ 書籍や雑誌、新聞などの特性を理解し、有効に活用する	
		・ 図書館を活用して情報を集める	
		・ インターネットの仕組みと利便性・危険性を知り、検索を活用する	
	調査	・ 調べたい情報が得られるように質問項目を定める	
		・ 質問紙を用いてアンケートを実施する	
		・ 人に直接面会してインタビューを行う	
	情報の整理、保存	・ 調べた情報をテーマごとに分類して、ファイルリングする	●
		・ 情報の作成者や発信元を確認し、情報の信頼性を確認する	
	講義ノートの取方	・ 大学の講義などで知識を体系的に得る	
・ 必要なことをノートにまとめ、知識を整理する (Note-taking)			
・ 分からないこと、知りたいことを質問する			
データの読み取り	・ データ、グラフの特性を知り、読み取れることを言語化する	●	
	・ データ、グラフから読み取れる事実の背景や要因を考察する		
	・ 複数のデータから総合的に情報を読み取る	●	
	・ データの数的関係をとらえる (数的処理力→SPIの非言語領域)		
文献・資料の読み取り	・ 語意を理解し、概念を正確にとらえる (語彙力→SPIの言語領域)	●	
	・ 書かれている内容を客観的にとらえる (読解力→SPIの言語領域)	●	
	・ 文脈や全体の構造を理解し、読み取った内容を図化し、要約する	●	
批判的分析	・ 客観的な事実と主観的な意見とを区別する	●	
	・ 多角的な視点から物事を捉え返す	●	
	・ 論理の矛盾や飛躍がないかを検証する	●	
	・ 情報発信者の立場やバイアスを考える		
	・ 複数の情報やメディアを比較検証し、断片的な情報から全体像を把握する	●	

育成方法としてのアクティブラーニング(AL)

アクティブラーニング＝能動的な学習・学習者中心の教育

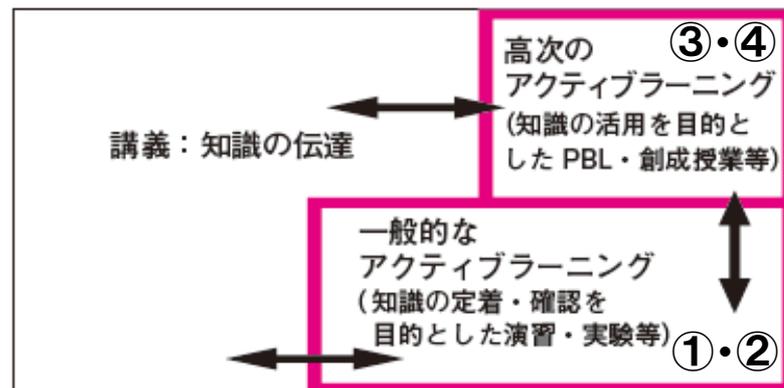
【授業形態】

- ① 学生参加型授業
 - コメント・質問を書かせる／フィードバック、理解確認(クリッカー／レスポンス・アナライザー、授業最後／最初に小テスト／ミニレポート等)
- ② 各種の共同学習を取り入れた授業
 - 協調学習／協同学習
- ③ 各種の学習形態を取り入れた授業
 - 課題解決学習・課題探求学習
 - 問題解決学習・問題発見学習
- ④ PBLを取り入れた授業
 - Problem-Based Learning／Project-Based Learning

溝上慎一(京都大学 高等教育研究開発推センター 准教授)

【河合塾の全国調査】

- ALの現状を全国調査＝河合塾版GP
- アンケートと訪問調査
- ALに2段階あり
 - 一般的なアクティブラーニング(GL)
 - 高次のアクティブラーニング(HL)



中教審大学分科会「審議まとめ」にもALの推奨あり

2 ジェネリックスキルの育成における成果と課題

立教大学・経営学部

春学期

秋学期

プロジェクト実行

スキル強化

4年生は2/3がゼミ

3年次

BL4

起業グループプロジェクト
(前輪と後輪をバランスよく駆動する)



BL4 選択
1クラス (アップル社)

2年次

BL2

問題解決グループプロジェクト
(後輪の活用を開始する)

BL3

A 講義とグループワーク

(各自の経験をリーダーシップ理論で振り返り学習を定着)

B グループ討議やペアセッション

(リーダーシップのためのコミュニケーションスキルを養う)

C 対話法と添削による文章表現改善

(リーダーシップのための批判的思考を養う)

BL2 経営学科必須
(国際経営学科はEAP2必須)(8クラス)(日産)

1年次

リーダーシップ入門

問題解決グループプロジェクト
(両輪の活用を開始する)

BL1

ディベート
(論理思考力を養う)

BL1 経営学科必須
(国際経営学科はEAP1必須)(10クラス)(東京電力)

BL0=370人全員必須
(18クラス90チーム)
専任講師28名(全員)
ホームルームも兼ねる
(モスフード)

産業能率大学・経営学部

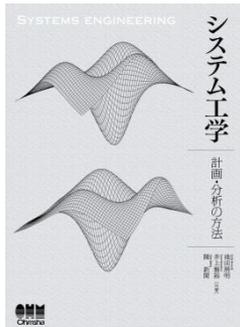
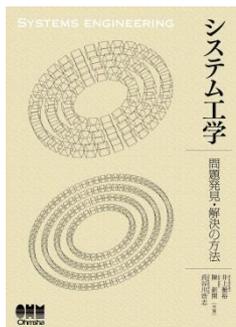
「ショップビジネス講座」と「フィールドリサーチ」は内容が同期・連動している。

科目名		シラバス構成			
座学	ショップビジネス講座	店舗調査ノウハウ	成功ショップ研究手法	出店のための必要条件	出店のための最終コンセプト案の発表と評価
	授業内容の同期				
演習	フィールドリサーチ	店舗調査実査	実査内容の分析	仮想ショップの出店計画策定	

2 ジェネリックスキルの育成における成果と課題

芝浦工業大学・システム理工学部

演習と講義の配置



システム理工学
専攻との連携
世代+領域間

講義科目
システム工学C
(PM)
3学年前期

システム
理工学専攻
システム工学
特別演習
演習科目
システム
工学演習C
3学年前期

総合研究
4学年通期

学生自主
プロジェクト
へ応募
(大学、後援会
支援)

* 実問題への挑戦

必修科目

講義科目
システム工学B
(数理計画)
2学年後期

演習科目
システム
工学演習B
2学年後期

講義科目
システム工学A
(システム計画)
2学年前期

演習科目
システム
工学演習A
2学年前期

- * 問題を把握する
- * 解決策の検討と最適化
- * 意志を決定する
- * プロジェクト計画・運営

講義科目
(総合科目)
システムとは、
1学年後期

- * 協調する
- * 創造する
- * 思考する

演習科目
創る
1学年前期

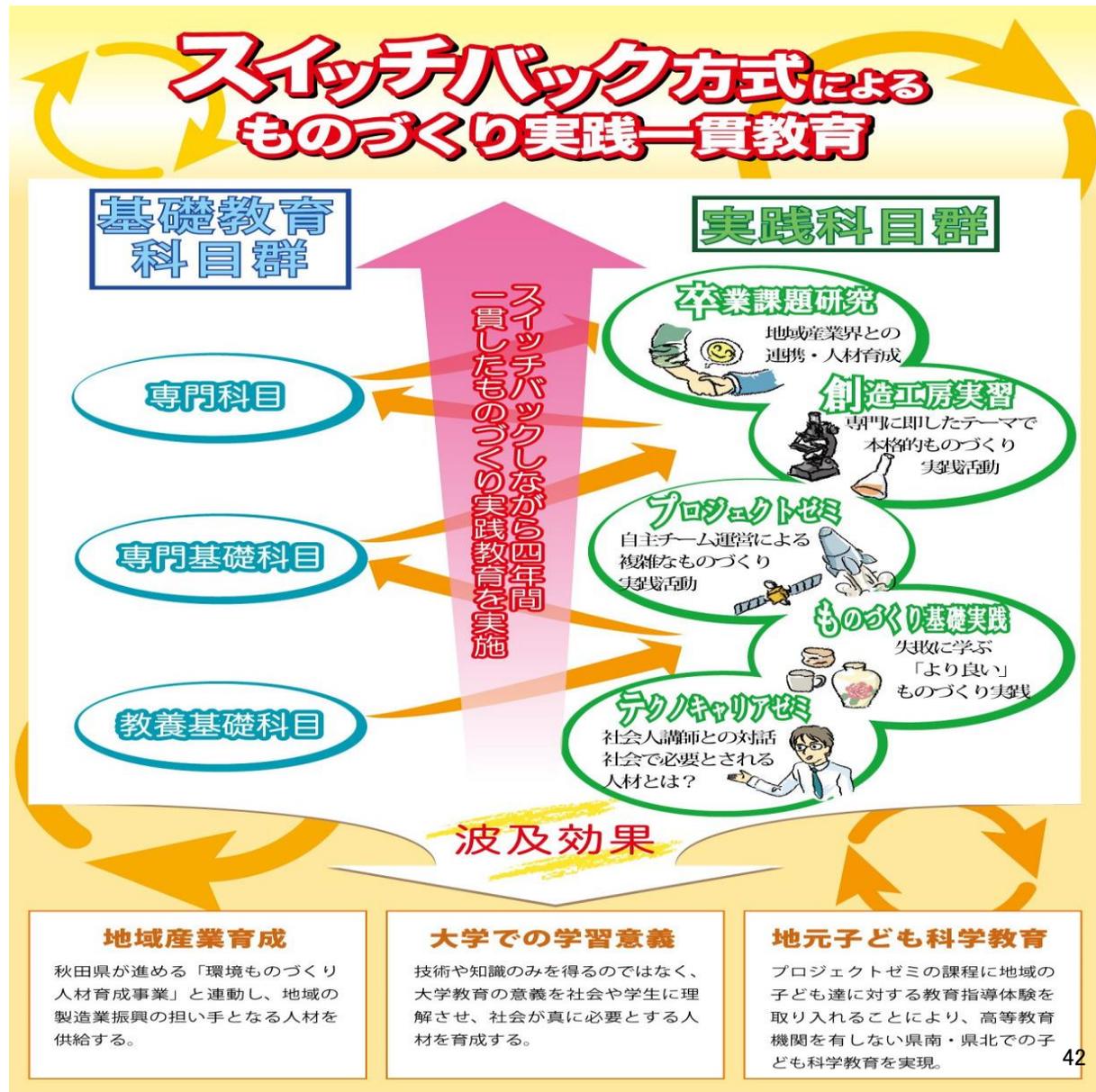
演習は学科混成チーム

プロジェクトを通じた実践・経験

哲学・理論・技法

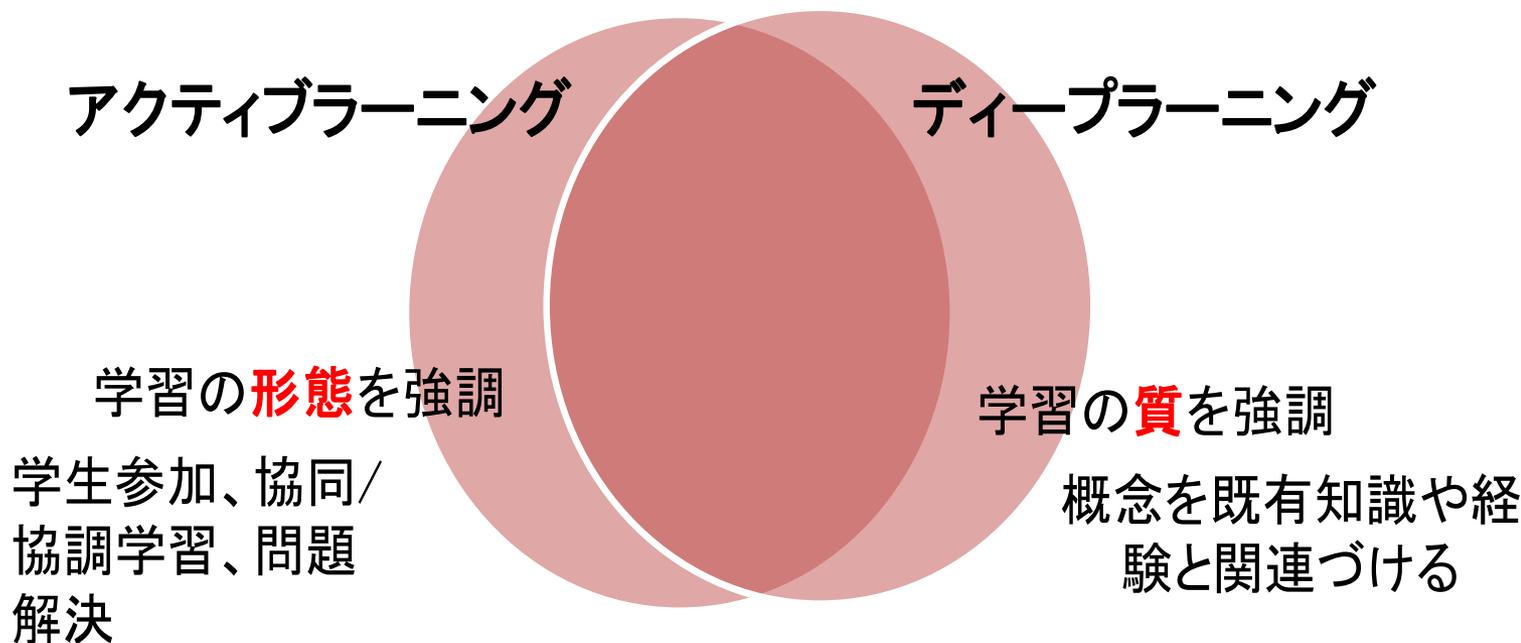
秋田大学・工学資源学部

- 「スイッチバック方式」と呼ばれる独自のカリキュラム設計。
- 要素技術(何にでも使えるように幅広く)
 - ものづくり(絞って実践)
 - 座学(幅広く)とスイッチバックしながら、レベルがらせん状に上昇していくことを構想したもの。



育成方法としてのアクティブラーニング(AL)

- ディープラーニングとしてのアクティブラーニング
 - 学生の活動 ≠ アクティブラーニング
 - 学生が活動を通して深く学ぶことが大切



(京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授 溝上慎一)

教育の質を保証するディープラーニングの授業設計

DP—CP—科目設計を踏まえた「授業案」の作成

- 科目設計に即してシラバスを作成する
 - シラバスに即して各回の「授業案」を作成する
 - 誰に → 学生状況の把握
 - 何を → 修得すべき内容
 - いつ → 教えるタイミング
 - どのように → 指導法
- ↓
- 指導法を意識し、「授業案」を作成するFDが必要！

河合塾のチームティーチング—授業運営のPDCA—

Plan	Do	Check	Action
科目設計に即してシラバスを作成する		PROGで学生状況を把握する	学生状況に即して授業案を再検討する
シラバスに即して各回の授業案を作成する	授業を実施する	学生の理解度を確認する	次回の授業案を調整する
	1セメスターを終了する	プログラム全体の問題点を洗い出す	次年度のシラバス・授業案を作成する